

五島市図書館友の会だより

第3号(2014.7.10)

発行者 五島市図書館友の会

宮本常一に読む五島列島

内海紀雄



宮本常一の静かなブームが続いている。在野の民俗学者で、離島振興法の生みの親でもある。没後33年になるが、生前から刊行が始まった「宮本常一著作集」は51巻に達し、なお続刊中だ。シリーズ「私の日本地図」は再刊され、新たに編まれた「宮本常一講演選集」(全8巻)の刊行も半ばに達した。

私が初めて読んだ彼の著作は、「日本の離島」(著作集の第4巻に収録)であった。もう50年以上も前の、まだ学生の頃だ。

この本に五島列島の島々が登場する。序章で、今は無人島と化した三井楽沖の姫島の中学生の作文を引用した。「運動場が狭く、海が近いので、野球のバットは左手に持ち、球が遠く飛ばないようにする。沖を大きな船が通るが、島には寄らない」(要旨)―私が久賀島で過ごした少年時代と二重写しになった。

宮本は戦後の1952年、初めて五島を訪れた。西海国立公園に備える学術調査だった。その時の印象を次のように記している。

「(長崎―五島航路)藤丸の上から…ムギが美しくうれている。その黄色があせている。貧しい村なのであろうと思った。あのムギの色には(肥料の)リンサンがきいていない。(中略)そういうことが生産を低くし、貧困にさせているように思った」

「講演選集4」で宮本は、「離島振興とは島民を美人にすることだ」と意表を突く発言をする。40年前のことだ。物を運んだり、船を動かしたりするのも人力頼りだが、これを動力化しなければ、五島の人の顔からシワは消えない、つまり美人はできないという。

このように離島や辺地の厳しい現実を目を向けた。抜け出すためにはどうしたらいいか―彼の生涯はその難問との格闘であった。

「講演選集」各巻には随所に半世紀前の五島の懐かしい光景が描かれている。それは、しかし、この間のすさまじい変貌と表裏をなす。悪条件の克服と懸命に取り組んできた島人の苦労は、いつ報われるのであろうか。宮本の痛切な声が行間から響いてくる。

私は新聞の取材で一度会った。遠く島をみつめるような慈眼のまなざしが忘れられない。(太字の本は「内海紀雄文庫」に入っている)

[リレーエッセイ2]

講演報告「図書館の現在と未来」

－佐賀・伊万里市民図書館から－

6月7日、第3回五島市図書館友の会総会後、古瀬義孝伊万里市民図書館長による
標題の講演が開催されました。参加者は24名。

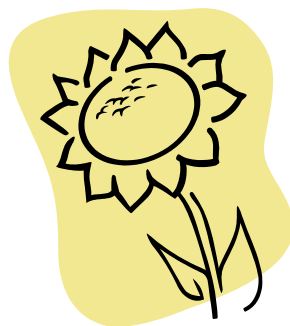
伊万里市民図書館は全国でも屈指の図書館サービスがおこなわれていることで有名
です。今回は現図書館の建設時より、行政職として関わり、現在は図書館長として活躍
されている古瀬さんの有意義なお話でした。

要旨

現図書館は平成7年7月7日に開館された。市人口は平成26年3月現在57,096名。
開館までに「市民がどういう図書館を望むのか？」という課題で、公開講座で「図書
館づくり伊万里塾」と題し、8回に及ぶ勉強会を開催。当時、関わった市民は「図書
館フレンズいまり」（図書館支援市民活動団体＜平成26年5月現在会員数381名＞）とし
て、今なお図書館応援団として図書館とともに図書館づくりをおこなっている。

現在の図書館事業の特徴として

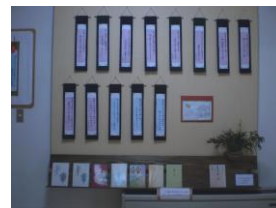
- 施設の外観は豪華さより地味に、内部は市民の滞在型を重点に居場所づくりをたく
さん作った。
- 貸出冊数は制限なし。
- 市民一人あたりの年間貸出冊数は8.9冊（五島市立図書館は3.8冊）
- 古本まつりを「図書館フレンズいまり」主催で年4回開催。（益金は図書館へ寄附）
- 市議会に本の貸し出しをおこなっている。
- 市の課題を常に特別コーナーを設置して展示。
- これからは図書館をPRしていく時代。
- 小・中学校への「朝の読書活動」は100%実施。
- 地元企業育成のための資料提供に力を入れている。
- 情報化時代のデータベースの利用。電子出版に対応。
- 目指す図書館の姿（ライフステージごとの目標）
 - ・ 幼い子らには、いのちをはぐくむ絵本を
 - ・ 成長期の子どもには、心の糧となる本を
 - ・ 学ぶ若者には、知識欲を満足させる本を
 - ・ 社会人には、生活や仕事に役立つ本を
 - ・ お年寄りには豊かな人生を振り返る本を
- 教育施設としての図書館のミッション
すべての人の成長（自立・自律）と成熟、自己実現を支える図書館→図書館は、
ひとづくり・まちづくりを支える成長する施設です



【設置及び目的】

第1条 伊万里市は、すべての市民の知的自由を確保し、文化的かつ民主的な地方
自治の発展のため、自由で公平な資料と情報を提供する生涯学習の拠点として、伊
万里市民図書館を設置する。－伊万里市民図書館設置条例より－

第3回総会報告 (6月7日)



25年度活動報告

- ① 会員数→ 41名 (昨年比17名増、7月1日現在)
- ② 役員会開催 →2回
- ③ ニュースNO2 発行
- ④ 図書館展示コーナー「アートのひろば」の協力
 - 平成25年10月 「パッチワーク」 上河紀恵子・上遠野 絹枝
 - 11月 「俳句：千草会」 代表：長谷 静寛
 - 12月 「原式おし花：なでしこ」 代表：富川 キクエ
 - 平成26年 1月 「短歌：浜木綿」 代表：高井良 武
 - 2月 「水彩画」 石田 智子
 - 3月 「パネル布手芸：モラの会」 代表：草野 絹枝
 - 4月 「ボールペン画」 県立南高等学校 美術選考

- ・たくさんの団体・個人が発表の場として図書館を利用されました。
展示をしてくださった上記の皆様ありがとうございました。
(約50の方が作品を掲示)
- ・老若男女の図書館入館者が「文化」を楽しみ、知る機会となりました。

- ⑤ 図書館本棚整理手伝い
10/4～3/31 計6回 (毎月第1金曜日) 延べ32名 (実数13名)
- ⑥ 「協同の町づくり支援事業」の補助申請は決定されませんでした

会計報告

H25. 4. 1～H26. 3. 31

区分	内容	金額 (円)	内訳
収入	前年度繰越金	544	
	会費	17,000	500円×34人
	寄附	28,600	
	利息	2	
	合計	46,146	
支出	旅費交通費	16,890	講師：相良諫早市立副館長
	会費	1,080	全国図書館友の会
	消耗品	6,851	本棚材料・道具箱等
	通信費	800	切手代
	事務費	210	封筒代
	合計	25,831	
次年度繰越金		20,315	

会費未納の方は500円を封筒に入れ、図書館玄関「友の会」ポストにお入れ下さい

ご挨拶



山口 幹生館長

話は四十年前に遡ります。当時、小田急線の世田谷代田駅で学費を得るために、満員電車の尻押し部隊兼改札係として働いておりました。上京する折は、五木寛之、野坂昭如、高橋和己に感化されておりましたが、プラットホームで時折見かける植草甚一さんを知り、本の世界にのめり込みました。安曇野の丸山健二の世界も知り、ほぼ毎日古本屋に通い、週一回は場末の映画館にも通い、また、フォークシンガーの中山ラビと豊田勇造さんを知ったのもその頃です。

振り返ってみますと、今の私を作り上げたものがこの時期に集中しています。丸山健二に至っては今だ心の中に有り、切り刻まれております。それは「何はともあれ、あなたはどうかここまで生きてきたのだ。それだけでも実にたいしたことだとは思わないか。それだけでも幸運に恵まれた人生を送ったとは思わないか。そもそも幸福の尺度などというものはいい加減なのである。他人のそれと比較することでくるくると変わってしまうのだ。見事に咲いた花も、うまく咲くことができなかつた花も、他者に理解されようがされまいが、黙って散ってゆく。心の穴ぐらに自ら閉じこもって外界を眺めることはない。この世はひたすら耐え忍ぶために造られた世界ではないのだ。」の一文です。

節目節目に助けられ、今は頭の格好までも真似している次第です。豊田勇造さんにも毎年、長崎ライブでお会いし飲んでくれています。

今、図書館の書架を眺めるとき、金井美恵子、野呂邦暢等のなつかしい名前が目に入り、うれしくなり一人ニヤニヤしている日々ばかりです。

人名の羅列と引用が長くなり申し訳ありません。今年の四月より奈留島から船通勤で図書館にお世話になっている山口です。よろしく申し上げます。

26年度の活動予定

- ① 図書館展示コーナー「アートひろば」の協力
- ② 図書館本棚整理手伝い・簡単な作業（8月と1月はお休み）
毎月第一金曜日 10:30～11:30
- ③ 学習会や図書館見学等、再度「協同の町づくり支援事業」の補助申請
内容：8月末ぐらいに伊万里市民図書館・武雄市立図書館見学
11月末ぐらいに勉強会
- ④ 読書会の開催（・11月・3月開催予定、県立の読書会用テキスト
利用・自由に感想を述べあう）
- ⑤ 古本まつり／来年1月に「親子読書まつり」で子どもの本ネットワーク
協議会「五島っ子」と共催で。安価で売り活動資金に。

新役員体制

代表：坂井 淳／副代表：旭梶山 英臣／会計・事務局：市川 和枝／役員：清川めぐみ

・門原 さおり

編集後記 表紙のエッセイ執筆者、内海紀雄さんに、何とか会を大きく、元気にと思い「友の会入会」をお願いしたところ快くご夫妻で入会してくださいました。嬉しい限りです。もっともっと図書館応援の輪が広がることを願っています。（坂）